

4月17日（水）学校教育研究会総会での、講演会について その2

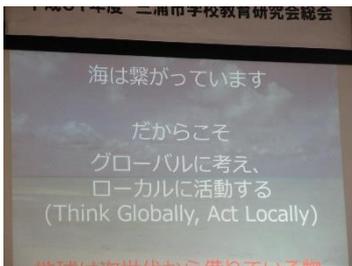
キリバスでは、450人住んでいたのに、海の浸水で住めなくなった村も出てきています。スーパームーンの際は、満月で潮位が上がり、浸水するようにもなりました。50年に1回ぐらいの割合で起こっていた嵐が、1年に数回起こり、その結果、ヤシの木の根がむき出しになり、やがて倒れていきます。



2050年には、首都タラワの25～80%が海水の浸水を受けられるだろうと予想されています。地下水と雨水に頼っている飲み水が、干ばつの影響で減少し、塩水を飲むようになってるので、それに伴って、赤ちゃんの死亡率も高くなっています。

また、海水温の上昇の影響で、サンゴの白化が進み、その結果、主食である魚が以前より獲れなくなっています。（三浦でも、ワカメの収穫が例年の半分くらいだったそうだし、松輪サバの水揚げも激減しています。）

日本も、もう他人事ではなくなっています。41℃を超えるような猛暑が当たり前になっているし、沖縄の人たちの中には、実感として「海が近づいてきている」と言っている方もいるそうです。（観音崎自然博物館の山田先生によれば、つい最近、ハナビラダカラの生きている個体を発見、4月に見たのは初めてだということです。）



すべての海は繋がっています。海洋プラスチックゴミの問題も深刻です。2050年には、海洋プラスチックゴミの総重量が、世界中の魚の総重量より重くなるといわれています。キリバスから見ると、日本は、アジアが出したゴミの最後の防波堤になります。日本で、できるだけ食い止めてほしいと思います。

キリバスは、世界の197国中、196番目のCO₂排出国なのに、気候危機の最前線に立たされています。この最前線国を守ることが、持続可能な地球の実現につながるはずですが、先生方が、子どもたちと一緒に考え、行動していくことが重要です。ぜひ、力を貸していただきたいと思っています。人間が意志を持って行動すれば、自然は必ず応えてくれると信じています。

「グローバルに考え、ローカルで行動する」(Think Globally, Act locally)を大切にしてほしいです。

講演を聞いた小学校の先生から「お話を聴けて良かった。自分で、何かできることはないかを考えていきたい」という感想があり、オノさんからは「小さなことの積み重ねが大きな成果を生むと思っています。こういう感想を聞けて、また、希望が持てました。ありがとうございました」と答えられました。



先生方のPCのデスクトップ上に、「海洋教育カリキュラム一覧」というアイコンから見る事ができるイントラネットサイトがありますが、そのトップページに、「みうら学・海洋教育モデルカリキュラム試案一覧」というリンクボタンを追加しました。学年ごとの年間を通したカリキュラムの試案を掲載しています。今年度のカリキュラムを考える際に、参考にいただければ幸いです。

（文責 事務局長 渋谷）

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所854-9443まで